

東京

「遙かに聞こえる歌- Songs in the distance」

ヘルマン・ヴァン・ヴェーン (Herman van Veen)

& エディス・レールケス (Edith Leerkes) 共演コンサート

世界中を旅していても、東京への路がいつも分かるというのは、そこに訪ねたい特別な場所があるからです。それ故に、エディス・レールケス (Edith Leerkes) や友人達と共に冗談を語り合いそして歌うために、私は楽器を持ち込むのです。演奏して、歌って、人生を語り、客席が踊り、終戦を喜び、なぜミルクにコーヒーが注がれるのか、子供達の誕生とかについて語りましょう。キスと甘い言葉、蛇穴からの蛇、明日の食事、永遠とそれへの代償などなど。

ヘルマン・ヴァン・ヴェーン

ヘルマンは、心に静かな情熱をもち、繊細にも激しくも表現できる歌手です。彼の多くの歌詞は、甘苦くそして過ぎさる日々にかかるさまざまな経験を取り上げています。そして、彼の問いかけは、答えを求めていません。彼の音楽は、一概には言い表すことができないほどに独自のスタイルを持ちます。構成はクラシック風であって、しかもジプシー音楽の情熱とフランスの文学的シャンソンの叙情性をもちあわせています。

エディス・レールケス (1959) は、オランダ人のギタリスト・歌手で、ヘルマンと同様、クラシックとヨーロッパのフォーク音楽から、彼女の音楽の創造力を引き出しています。ヘルマンと共演する以前は、ソロ演奏家としてギタートリオと共演をし、カーネギーホール、アムステルダムコンサートヘバウ、東京のカザルスホール、ウィーンのコンザルトハウスなど世界第一流のコンサートホールで演奏活動をしました。演奏スタイルは、目を見張るほどダイナミックで、肌がひしひしするほどに感情が伝わってきます。時計仕掛けのようなリズム、そして風のような歌声を持ちます。

ヘルマン・ヴァン・ヴェーン（1945）は、歌手そしてバイオリン奏者であり、また随筆、脚本、物語を書き、さらに絵画を創作し、また監督でもあり作曲もこなします。世界は、彼の人文的仕事と創作活動の功績に対して、数多くの国際的な賞と2つの名誉博士号を与えてくれました。そのいくつかの例として、ドイツ連邦共和国功学勲章（Bundesverdienstkreuz）、オランダ・ナサウ・オーデの騎士勲章（Knight of the Order of Oranje Nassau）、オランダの獅子（Nederlandse Leeuw）などの受賞です。そして彼は4人の子供の父親でもあります。

このコンサートと同時発売のCDの題名は、アントン・チェーホフの物語から、1行を引用しました。「Songs in the distance」（遙かに聞こえる歌）

「下に見える草原には、乙女達は輪になって踊り、歌を歌う、、、

それは遙かに、穏やかなメロディーとなって届く」

私たちの人生の大切な節々が書かれた物語には、いつも必ず音楽があります。音楽がない世界観など想像もできません。

今回の東京公演でヘルマンは、新曲「ティツィア（Titia）」を初めてご披露いたします。このバラード曲は、ティツィア・ベルグスマ（Titia Bergsma）というヨーロッパからの女性として初めて日本の土を踏んだ歴史上の人物に敬意を込めて捧げる曲です。

ヘルマン・ヴァン・ヴェーンとエディス・レールケスは、2011年6月に東京に訪日します。

詳細はヘルマンのHPをご覧ください。 www.hermanvanveen.com